

経済・金融
フラッシュユーロ圏失業率(2024年11月)
—失業率・若年失業率ともに横ばい推移

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

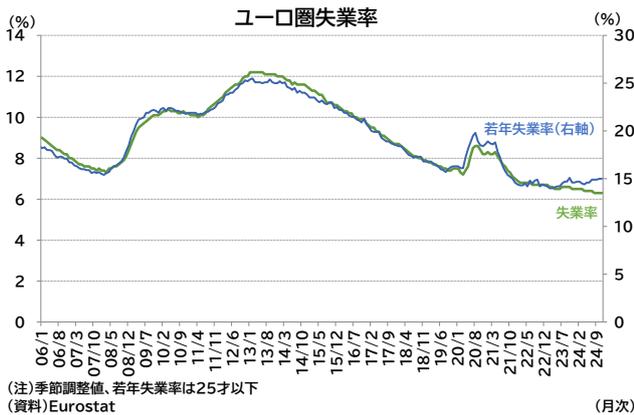
1. 結果の概要:失業率は6.3%で横ばい推移

1月7日、欧州委員会統計局（Eurostat）はユーロ圏の失業率を公表し、結果は以下の通りとなった。

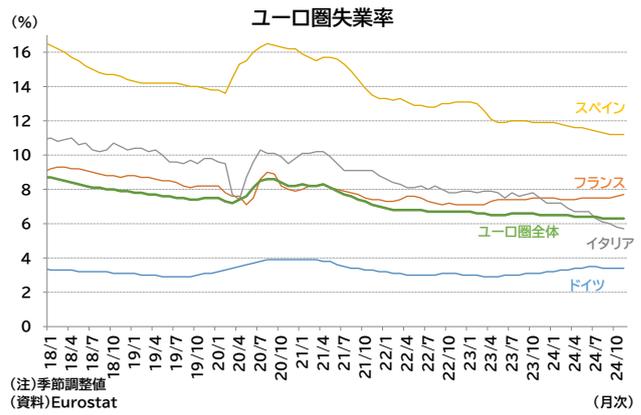
【ユーロ圏失業率（20か国、2024年11月、季節調整値）】

- ・失業率は6.3%、市場予想¹（6.3%）と一致、前月（6.3%）から横ばいだった（図表1・2）
- ・失業者は1081.9万人となり、前月（1085.8万人）から3.9万人減少した

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:若年失業率も横ばい推移

ユーロ圏（20か国）の11月の失業率は6.3%となり、統計データ公表以来の最低値で4か月連続の横ばい推移となった。また、10月以前の過去データは、ほとんど変更されなかった。

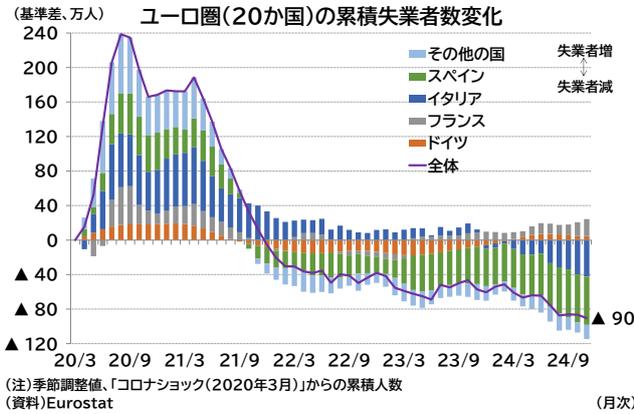
失業者数は11月の前月差で3.9万人減となり、2か月連続の減少となった。主要4か国で見るとフランス（3.8万人）が増加したが、イタリア（▲2.3万人）、スペイン（▲0.5万人）、ドイツ（▲0.2万人）は減少した。ドイツは2か月、イタリアは5か月連続での減少だった。失業者数はコロナ禍前より90万人少なく、スペイン（コロナ禍前比▲55万人）とイタリア（同▲42万人）の失業者減少の寄与が大きい（図表3）。特に24年以降はイタリアの失業者の減少が加速しており、失業率で見ても、他の主要国と比較して顕著に低下している（図表2、ただし、失業者減少の一部は非労働力人口になっていると見られ、労働参加率が低下している。後継図表7参照）。

11月の若年失業率は15.0%となり、10月（15.0%）から横ばい推移となった。また、過去デー

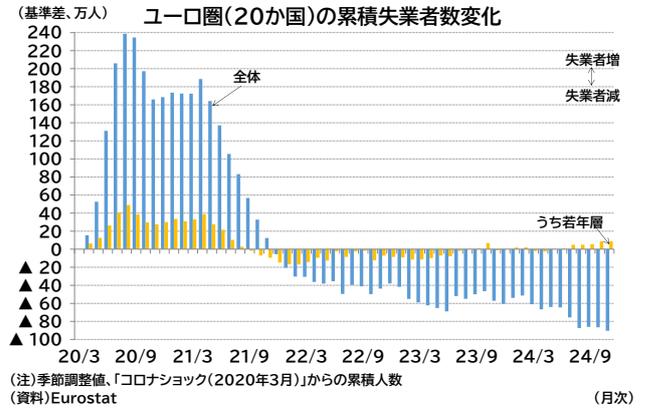
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

タもほとんど変更されなかった。若年失業者数は11月で242.3万人（前月差0.2万人）と7か月連続で増加しており、24年5月以降の若年失業者数の水準はコロナショック直前（20年3月の233.4万人）を上回る状態が続いている（図表4）。

（図表3）

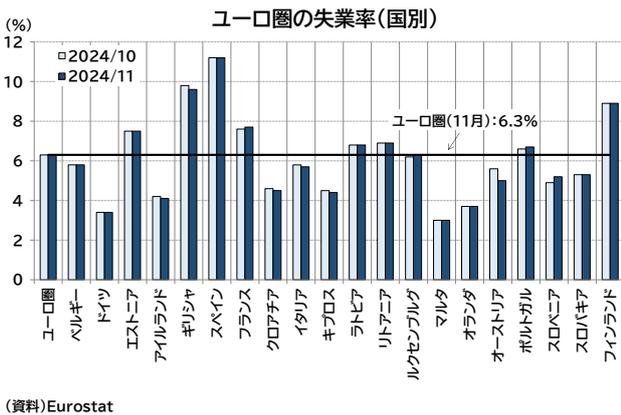


（図表4）

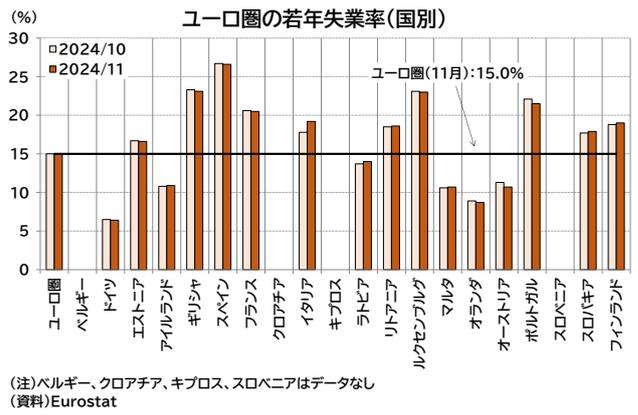


国別の11月のデータを見ると、失業率は20か国中、悪化した国が4か国、改善が6か国、横ばいが10か国だった（図表5）。若年失業率は公表されている16か国中、悪化した国が7か国、改善が9か国だった（図表6）。

（図表5）

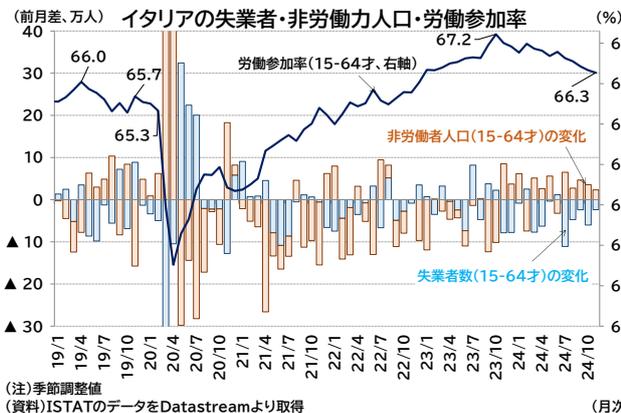


（図表6）

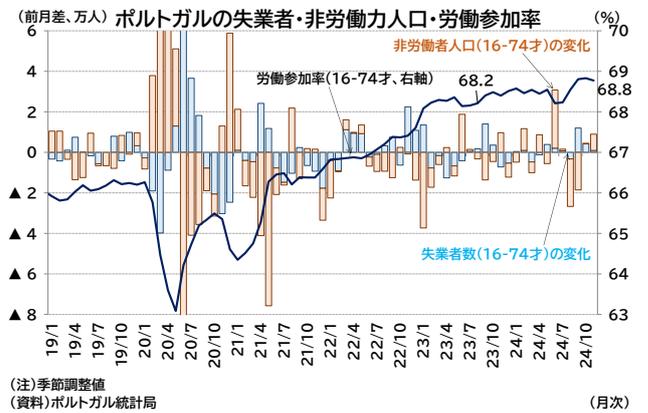


最後に詳細な月次データを公表しているイタリアとポルトガルについて確認すると、イタリアは失業者が減少する一方、就業者も減少し、非労働力人口が増加している（図表7）。ポルトガルは失業者、雇用者、非労働力人口のいずれもが増加する形となっている（図表8）。労働参加率はイタリアでは低下傾向にある一方、ポルトガルでは高水準を維持している。

（図表7）



（図表8）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。